

山口薫を中心とした高崎、群馬ゆかりの画家たち

群馬県立近代美術館ボランティア連絡会 顧問 萩原富士雄

* はじめに ～「上野の森」と「群馬の森」

「上野の森」 上野駅公園口から（添付の「上野の山文化ゾーン」参照）
国立西洋美術館～東京国立博物館～東京都美術館～黒田記念館（「湖畔」「智・
感・情」）～東京芸術大学大学美術館～（谷中霊園）～朝倉彫塑館
東京文化会館～日本学士院～上野の森美術館

「群馬の森」

群馬県立近代美術館 群馬県立歴史博物館

I. 群馬県の主な美術館（「平成30年度関東地区博物館協会加盟館園名簿」参照）

群馬県立近代美術館（高崎） 群馬県立館林美術館（館林） アーツ前橋（前橋）
高崎市美術館 タワー美術館 山田かまち美術館（高崎） 太田市美術館・図書館（太
田） 富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館（富岡） 大川美術館（桐生）

II. 「群馬県立近代美術館」 1974年（昭49）開館

群馬県美術館設立準備会 主導者 井上房一郎

1971年（昭46）新進気鋭の建築家 当時40才の 磯崎新（あらた）＝今年建築
界のノーベル賞といわれるプリツカー賞を受賞＝に設計を依頼した

III. 高崎を代表する文化人 井上房一郎さん 1898（明31）～1993（平5）

父保三郎^{やすきぶろう}は高崎白衣観音を自費で設立。1920年代、画家を志した房一郎はパリに留
学。音楽、美術、哲学などフランス文化について学び、帰国後高崎の文化事業の推進
に力を注いだ。ナチスに追われたドイツの世界的な工芸家ブルノー・タウトを少林山
（洗心亭）に。また群馬音楽センターや県立近代美術館の設立に率先して尽力した。

IV. 群馬、高崎ゆかりの画家たち

湯浅一郎（安中） 福沢一郎（富岡） 山口薫（高崎） 鶴岡政男（高崎）
豊田一男（高崎） 松本忠義（高崎） 中村節也（前橋） 南城一夫（前橋）
オノサトトシノブ（桐生） 横堀角次郎（前橋） ほか

V. 群馬県立近代美術館の日本人作家

◎ 県内作家の主な作品

- 湯浅一郎 1868 (明元) ~1931 (昭6)
「徒然」1904 (明37) 「画室」1901~3 (明34~6)
- 福沢一郎 (1898 明31~1992 平4)
「敗戦群像」1948 (昭23) 「他人の恋」1930 (昭5)
- 鶴岡政男 1907 (明40) ~79 (昭54)
「夜の群像」1949 (昭24) 「落下する人体」1954 (昭29)
- オノサト・トシノブ 1912 (明45) ~86 (昭61)
「二つの円」1957 (昭32) 「無題」1959 (昭34)
- 南城一夫 1900 (明33) ~86 (昭61)
「雨のマンジュシャゲ」1955 (昭30) 「鯛の静物」1927 (昭2)
- 山口 薫 1907 (明40) ~68 (昭43)
「緑衣の女」1931 (昭6) 「赤城の裾野」1935 (昭10)
「花の像」1937 (昭12) 「紐」1939 (昭14)
「水」1941 (昭16) 「花子誕生」1951 (昭26)
「ノートルダム」1954 (昭29) 「田園詩」1956 (昭31)
「矢羽根飛ぶ」1959 (昭34)
「おぼろ月に輪舞する子供達」1968 (昭43) ほか多数

VI. 山口薫の作品がある主な美術館

- 東京国立近代美術館 「母子」「田園詩」「子供のための楽曲 田園」ほか
京都国立近代美術館 「季節の哀歎 “田圃と鳥”」
新潟県立近代美術館 「林と動物」「夜明けの顔」
茨城県立近代美術館 「裸婦」 世田谷美術館「黒曜石」ほか
東京芸大美術館 「自画像」「竹の園生」ほか
神奈川県立近代美術館 「千手 “黒夫人” 像」
岐阜県美術館 「画室の森」
愛知県美術館 「ボタン雪と騎手」
愛知県立芸術大学 「雪と少女」
三重県立美術館 「シュミーズの女」
下関美術館 「歌う鳥と壺」
福岡市美術館 「丸い沼と春の雪」

◎^{かひつかん}何必館京都現代美術館

京都八坂神社から西にのびる四条通りの北側にある。若かりし頃山口の絵に魅せられたコレクター梶川芳友さん（同館館長）の収集した作品がある。

「おぼろ月に輪舞する子供達」「ワ ندا像」「パリのアトリエについて」
「花の像」「南風」「リラとつつじ」「瀧と山桜」「漂泊」
「壺と飛ぶ鳥の風景」 はか水彩画等を含め約80点余り

“昭和43年5月、上野の東京都美術館で第8回現代日本美術展が開かれた。私が山口薫の「おぼろ月に輪舞する子供達」と出会ったのはその会場であった。絵の前に立った瞬間、血の気がスーッと引き、私の身体は凍りついた。画家が描いてはならない絵というものがあるように思われた。現世と来世を写したかのような、死を自覚した作家自身の葬送、その透明感のある画面が、私にはまるで山口薫自身の「來迎図」のように見え、直感的に山口さんの死を感じた。それから五日後の5月19日、恐れていた山口さんの死が現実のものとなったのである。～

梶川芳友「詩人の魂」より

* 群馬県立近代美術館ボランティア連絡会

約100名。20～80才台 男女比率：男3女7

◎活動内容

インフォメーション（館内案内業務等）

資料（新聞等から美術関連記事を抜粋、スクラップ作成等）

解説（主に常設作品の解説。研修等を経て美術館から認定された者）

スクール活動（来館する小中高生団体等の課外授業としての応援、補助等。

学校側の希望で出張授業をすることもある）

イベント（美術館企画のワークショップ等の応援、補助）

お茶会（毎月原則として第3土曜日に美術館の一隅にある“お茶室”を開放してボランティアのメンバーがもてなしている）